教育心理学カリキュラムの体系化に向けて (2)

―今後のカリキュラムづくりの視点―

川原　誠司

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　別刷

2019年8月9日

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　2019年8月9日

教育心理学カリキュラムの体系化に向けて (2) †
―今後のカリキュラムづくりの視点―

川原　誠司*
宇都宮大学教育学部*

今回の一連の報告は，宇都宮大学教育学部での教育心理学カリキュラムについてこれまでのことを振り返り，今後の教育に活かすために，個々のカリキュラムを俯瞰して整理・統合するものである。本報告では，教職科目に関して現在コアカリキュラムで示されていること，また心理学の専門的組織から現在教育内容として示されていることなどを整理し，今後のカリキュラムづくりの参考になるようにする。

キーワード：教育心理学，カリキュラムの体系化，コアカリキュラム，今後のカリキュラムづくり

1．教育心理学のカリキュラムに関する近年の状況

(1) 宇都宮大学教育学部での最新の履修体系についての整理

前稿（川原，2019）において，これまでの宇都宮大学教育学部での教育心理学のカリキュラムを概観し，最新の専門科目の履修表を呈示した。

その表の科目に加え，教職科目と基盤教育（一般教養）の科目を加えて，科目内容別に履修年次を加味して示したものが図1である。教員免許取得に必要な科目だけでなく，心理学の概論・特講の講義や実習，研究スキルに関する教育がバランスよく配置するように心がけ，それを卒業論文にまで繋げ，そして図には示していないが，教育心理的な力量を持つ教員養成に繋げているようにしている。

これらの科目個々を精選・充実させ，科目間の関係をより有機的にしていく必要がある。その際には，個々の教員の努力のみでなく，近年の教育心理学や心理学を取り巻く全国的な状況を考慮しながら行うことが重要だと思われる。寸分の誤差なく斉一にするという意図ではないのだが，基準としてそのようなものを意識して策定することで，本学の教育活動を他所に説明したり，比較したりするときなどに支障をきたさないであろう。

(2) 近年の状況

教職科目と専門科目それぞれの方面で近年，様々な流れが見受けられる。

まず，教職科目については免許法の改定とともに再課程認定も進んでいるが，その際に文部科学省によって設定された「教職課程コアカリキュラム」（文部科学省，2017）への対応が必須となっている。その点から開講内容の再点検を行う必要がある。

さらに専門科目に関連する出来事として，心理職の国家資格としての「公認心理師」制度が近年成立した。この制度は心理学を重点的に学べる単位修得が必要となるので，教員免許取得を念頭に置き、教員数も限られる本学教育学部では不可能である。それでも，この制度の中で挙げられている学問内容（文部科学省・厚生労働省，2018）の多くをカバーすることが心理学教育の目安になるだろう。

また，全国的に共通な心理学の知識把握として，心理学会が実施している「心理学検定」というものもあり（日本心理学諸学会連合心理学検定局（編），2015），そこでの受検科目も心理学教育の目安になる。これらの点からも専門科目を点検する。

---

† Seishi KAWAHARA*: The systematization in teaching of educational psychology (2): A perspective on future curriculum making
Keywords: educational psychology, systematization of curriculum, core curriculum, future curriculum making

* School of Education, Utsunomiya University
（連絡先：kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

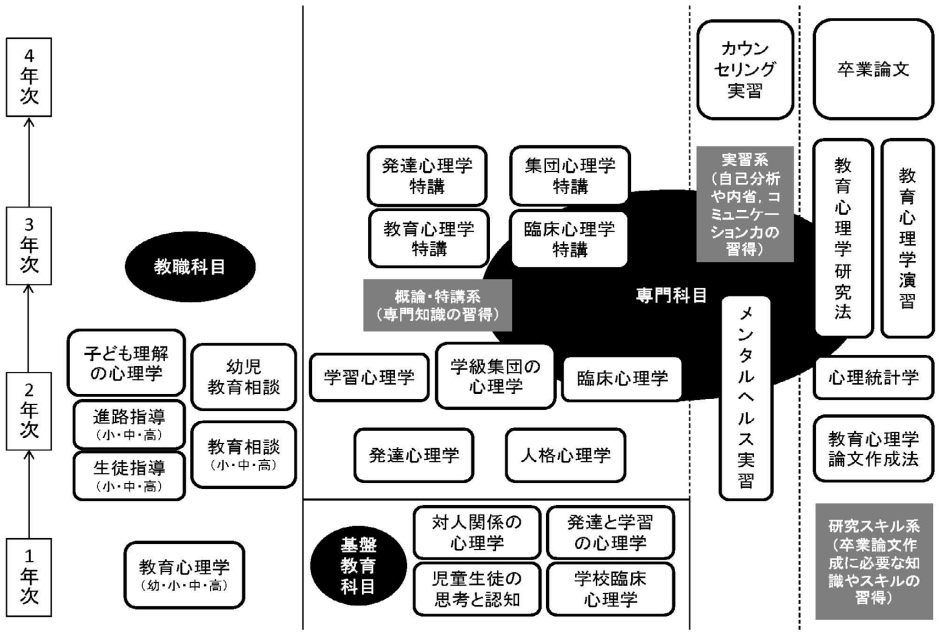

図１　平成31年度に存在する宇都宮大学教育学部での教育心理学関係の授業
（概論・特講系は履修年次が複数にまたがっているので，必ずしもこの順とは限らない。）

2. 教職科目のコアカリキュラムへの対応

図1の左側の教職科目においては，前述のとおり「教職課程コアカリキュラム」が設定されている。

カリキュラムの記述例を図2に示したが，到達目標に示された内容をカバーする必要がある。図2に一部を示した科目は本学では現在「教育心理学」の名称で開講されているが，図2のコアカリキュラムを見ると，「発達心理学」と「学習心理学」の2本柱

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

全体目標　幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程

一般目標:　幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。

到達目標:　1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における内的理解の意義を理解している。
2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（2）幼児、児童及び生徒の学習の過程

一般目標:　（以下略）

図２　本学の「教育心理学」に対応する科目についてのコアカリキュラムの前半部分の抜粋
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf より

を中心に展開されていることが分かる。したがって，この授業ではこれらの内容や用語をカバーしながら，「臨床心理学」や「社会心理学・集団心理学」の内容や用語は，「教育相談」や「生徒指導」の授業のほうでカバーして不足なく教育する必要がある。

同時に，現実的な問題として教員採用試験問題への対応も必要である。現状の教育心理に関する採用試験の多くは知識・用語を確認する出題が占めており，その出題内容は昔から不変の部分も多い。免許法改変に必ずしも依らないこのような実状も踏まえて教育内容に入れる必要がある。

3. 専門科目に関する内容や領域への対応

(1) 公認心理師で表示された内容

公認心理師では学部・大学院とも必要な科目が定められており，それが一覧となっている（文部科学省・厚生労働省，2018）。

一覧は25の科目名から成っているが，これらの一部を示したものが図3である。科目名が示され，その中で触れるべき内容が項目立てて示されている。これらの科目や内容を一定割合包摂することが，心理学の専門性の履修・修得の目安になる。

そして，これを確認することで，開講する各教員は科目シラバスに記載する内容や項目のチェックにもなる。

このように科目を準備することで、将来学校教員として活躍する際に心理的な専門職の人との連携のためのコミュニケーションがとりやすくなることが期待される。

図1に示した本学での開講科目と多くの部分で重なるものは以下のような科目である。「2. 心理学概論」「3. 臨床心理学概論」「4. 心理学研究法」「5. 心理学統計法」「6. 心理学実験」「7. 知覚・認知心理学」「8. 学習・言語心理学」「9. 感情・人格心理学」「11. 社会・集団・家族心理学」「12. 発達心理学」「14. 心理的アセスメント」「18. 教育・学校心理学」「22. 精神疾患とその治療」「24. 心理演習」。これら以外の科目においても，科目全体でなくても1事項に触れるようなものもある。

単位数の限界もあるので深く掘り下げる点では一定の制約はあるかもしれないが，本学でも多くの部分を学ぶことは可能であると言えるだろう。

(2) 心理学検定での領域

1. の（2）で触れた心理学検定は，心理学の学問領域を10科目に分け，A領域5科目，B領域5科目で実施している。図4にその関連図を示した。

日本心理学諸学会連合心理学検定局（2015）によると，A領域は「心理学部（学科・コース）がある多くの大学で心理学の授業で教えているもの」としている。本学でも「原理・研究法」を研究スキル系に専門的に配置し，残りの4科目は教職科目から専門科目にまで展開している内容である。

加えて，B領域の「統計・測定・評価」の科目も本学では開講している。日本心理学諸学会連合心理学検定局（2015）によると，統計や測定は「……『心理統計学』などの授業科目名で，どこの大学でも開講されていますが，……心理学研究のための道具と

2	心理学概論	① 心理学の成り立ち ② 人の心の基本的な仕組み及び働き
3	臨床心理学概論	① 臨床心理学の成り立ち ② 臨床心理学の代表的な理論
4	心理学研究法	① 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究） ② データを用いた実証的な思考方法 ③ 研究における倫理
5	心理学統計法	① 心理学で用いられる統計手法 ② 統計に関する基礎的な知識
6	心理学実験	① 実験の計画立案

図３ 「公認心理師」が要求する心理学の科目内容の抜粋
（25個ある内容の中から冒頭の２～５の部分のみを抜粋）
https://www.mhlw.go.jp/content/000412723.pdf より

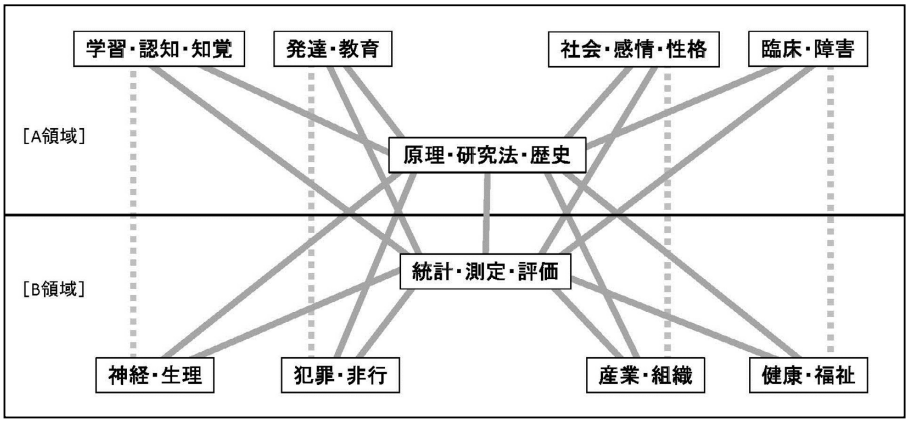

図４　「心理学検定」が示す領域間の関係
（日本心理学諸学会連合心理学検定局(2015)のⅲページにある図を作成して示した。）

しての色彩が濃いので，B領域に入っています」となっている。したがって，実際には必須科目と同等である。

図4を見ると，「原理・研究法」と「統計・測定」といった本学でも研究スキルの授業として開講している科目が研究上の基盤となることが分かると思う。その上で，A領域の各内容をバランスよく修得することで遜色ない学びができていることが分かる。

実際，教育心理学領域の履修科目を活用した学びをした本学の総合人間形成課程･人間発達領域では，新課程で独自開講した科目と組み合わせて，この心理学検定の2級（3科目受検）を受検して，ほとんどの学生が全ての科目を合格できていた。

4. 以降の報告で検討すること

今回の一連の報告の次からの報告（3）～（8）では，図1に示した各科目を担当している本学教員が，担当する科目領域について，前出した「教職課程コアカリキュラム」や「公認心理師の科目名や事項名」「心理学検定の受験科目名」で包摂の様子を確認し，それに加えて「心理学検定の問題集」（日本心理学諸学会連合心理学検定局，2016a；2016b）や「教員採用試験の出題内容」（協同教育研究会，2017）等を基に，重要な教育の観点を用語として具体的に選出して明示する。

それらを俯瞰することで，今後の学生教育における分担や関連性を相互確認できるだろう。教育内容の教え漏れが少なくなるように，また重要な点においては重層的になるように教育していくことを目指しやすくなる。

引用文献

川原 誠司（2019）. 教育心理学カリキュラムの体系化に向けて（1）―これまでの変遷と現状の課題―　宇都宮大学教育学部教育実践紀要，*6*.

協同教育研究会（編）（2017）. 全国版 教職教養の精選実施問題

文部科学省（2017）. 教職課程コアカリキュラム ＜ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/houkoku/1398442.htm ＞

文部科学省・厚生労働省（2018）.　公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」の一部改正について＜ https://www.mhlw.go.jp/content/000412723.pdf ＞

日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）（2015）. 心理学検定基本キーワード　改訂版　実務教育出版

日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）（2016a）. 心理学検定一問一答問題集［A領域編］　実務教育出版

日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）（2016b）. 心理学検定一問一答問題集［B領域編］　実務教育出版

平成31年3月29日 受理

The systematization in teaching of educational psychology (2) : A perspective on future curriculum making.

Seishi KAWAHARA